



国際大会発表奨励事業 (第66回韓国小児歯科学会大会) 報告書

Korean Academy of Pediatric Dentistry The 66th Scientific Meeting and Annual Congress

일자 2025년 4월 26-27일 장소 COEX 4층 Conference Room (South)



目次



公益社団法人日本小児歯科学会理事長	新谷 誠康	P2
公益社団法人日本小児歯科学会国際渉外委員長	仲野 和彦	P2
広島大学医系科学研究科小児歯科学	伊藤 有矢	P3
鶴見大学小児歯科学講座	大川 由加	P3
大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座	奥田 真琴	P4
九州大学大学院歯学研究院口腔保健推進学講座小児口腔医学分野	小峯 到	P4
昭和医科大学小児成育歯科学講座	柴原 果依	P5
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児歯科学分野	末原 佳奈	P5
大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座	高木 美里	P6
大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座	夏江 華瑠奈	P6
広島大学医系科学研究科小児歯科学	西村 卓	P7
朝日大学歯学部口腔構造機能発育講座小児歯科学分野	坂東 亮	P7
朝日大学医科歯科医療センター歯科衛生部	福井 朝望	P8
九州大学大学院歯学研究院口腔保健推進学講座小児口腔医学分野	三砂 千夏	P8
日本大学歯学部小児歯科学講座	若林 杏美	P9

第66回韓国小児歯科学会大会（KAPD）大会における国際大会発表奨励事業

公益社団法人日本小児歯科学会理事長
新谷 誠康

本事業は第66回KAPD大会（2025年4月26日～27日、ソウル、COEX）において、発表の筆頭発表者たる大学院生もしくは臨床研修開始後5年目までの会員に対して大会参加に必要な諸費用を支援し、国際的な場での積極的な活動を促進するために行われました。なお、本事業は日本小児歯科学会国際渉外委員会経費とASUNARO基金（佐野正之理事にご寄付いただき創設）をもとに運営されています。感謝を申し上げます。



この報告書からは、本事業の支援を受けて演題発表を行った若手の歯科医師の情熱が感じられます。「発表内容の説明」からは研究や症例報告の発表内容がわかり、その高度なことに驚かされます。また、「大会参加に関する感想」からは発表や学会イベントに（学会外イベントにも）真剣に、かつ楽しんで取り組まれたことが窺い知れ、日本の若手歯科医師の国際的な学会活動が以前にも増して活発になってきていることが感じ取れ、大変嬉しく思います。

本事業を企画運営いただいている仲野和彦国際渉外委員長は現在、第31回国際小児歯科学会（IAPD）大会の大会長として、その準備を進めておられます。2027年に大阪の地で開催される第31回IAPD大会を成功させるためには、若手歯科医師の国際的な活躍に向けた進むエネルギーが必要不可欠です。そのためにも、支援事業は今後も継続して行っていきたいと考えております。これからも日本小児歯科学会の若手会員が国際舞台において大いに活躍することを期待しています。



世界への扉を開けてみてください

公益社団法人日本小児歯科学会国際渉外委員長
仲野 和彦

「国際大会発表奨励事業2025」の1つとして、2025年4月26～27日にソウルで開催されました第66回韓国小児歯科学会大会に参加する若手会員の支援を行うことができました。本事業は、日本小児歯科学会および同佐野正之理事の個人的なご寄付によって創設された ASUNARO 基金によって実現したものであり、この場をお借りしまして改めて厚く感謝申し上げます。



本報告書を作成するにあたりまして、本事業において実際に支援を受けて大会で発表された13名の若手会員の先生方に、ご自身の発表内容の説明と、フリータイムにソウルで経験されたことの記載をお願いしました。報告書をお読みいただきますと、どの発表も日本小児歯科学会を代表して行っていただくにふさわしいものであるとともに、各先生方が英語を使って一生懸命にプレゼンテーションされている姿を頼もしく感じていただけることかと思えます。

2027年6月に日本（大阪）で開催される第31回国際小児歯科学会（IAPD）大会まで、あと2年あまりとなりました。大会組織委員会では、プログラムの作成など精力的に準備に取り組んでおります。この大会は36年ぶりの日本開催ということもあり、日本からの発表に大変注目が集まることが考えられ、日本の会員に堂々と英語でプレゼンテーションしてもらうことが重要になると思います。本報告書をご覧くださいことで、これまでに国際学会の発表を躊躇されていた若手会員の先生方にも、英語で発表していただく契機になることを期待しております。

今回の大会で特に印象的だったことは、KAPD から佐野正之先生自身に感謝状が贈呈されたことです。佐野先生の若手会員をサポートしたいという尊いお考えや、国際交流の充実を図りたいという熱い思いが伝わった結果ではないかと大変誇りに思いました。今後もこのような活動を推進して、世界の中での日本のプレゼンスの向上に努めていきたいと考えております。これからを担う若手会員の先生方、“From Asia to the World!” 勇気を持って、世界への扉を開けてみてください。

KAPDに参加して

発表内容の説明

う蝕の主要な原因細菌である *Streptococcus mutans* は、全身疾患にも関与する可能性があります。本研究では、遺体の口腔および大腸から分離された *S. mutans* を比較するために遺伝子解析を行いました。その結果、口腔と大腸の *S. mutans* は同一の菌株でしたが、遺伝子発現は各臓器で異なることがわかりました。このことから、*S. mutans* は腸内環境で生存するために遺伝子発現を変化させている可能性が示唆されました。

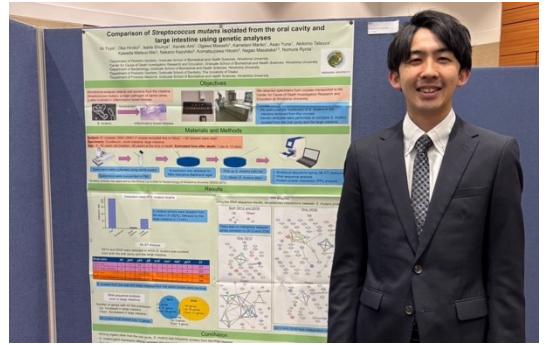
大会参加に関する感想

私は今回が初めてのポスター発表で、英語での発表ということもありとても緊張しましたが、なんとか無事に発表を終えることができて良かったです。初めての韓国で右も左も分からない中、ホテルに辿り着き、念願のカンジャンケジャンを食べに行きました。やはり現地の韓国料理はひと味違う美味しさでした。ロッテタワーにも登り、見渡す限りのソウル市街は絶景でした。

国際学会での発表はとても充実したもので良い経験になりました。この度は貴重な機会をいただきありがとうございました。

広島大学医系科学研究科小児歯科学

伊藤 有矢



ポスター前で



念願の韓国料理を食べに

KAPD2025に参加して

発表内容の説明

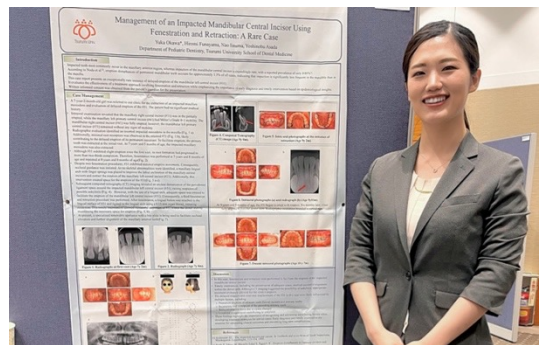
今回下顎左側中切歯に著しい萌出遅延を呈した極めて稀な症例について発表を行いました。萌出を促すために2度の開窓を行いましたが無効であったためCT撮影を行ったところ、骨性癒着が強く疑われました。リングアーチを用いて下顎左側中切歯の萌出スペースを確保した後、開窓・牽引処置を行いました。適切なスペース確保と牽引力により、対象歯は歯列内に良好に配列されました。本症例で、萌出遅延歯に適切なタイミングでの治療介入が重要であることを実感しました。

大会参加に関する感想

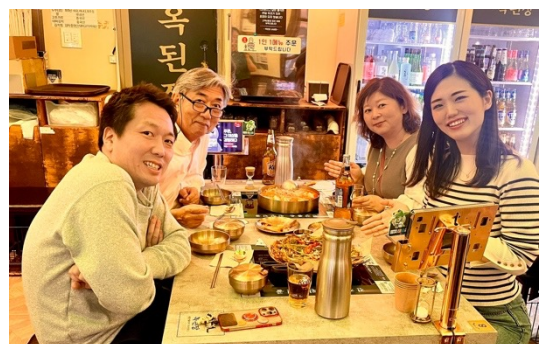
初めての国際学会での発表ということで緊張もありましたが、無事に発表を終えることができ、非常に良い経験となりました。会場では他の研究発表に触れる機会も多く、さまざまな視点やアプローチを学ぶことができました。また、韓国の文化や食事を楽しみながら、大学の先生方と充実した時間を過ごすことができました。今回の経験を通して、今後の研究活動や国際的な発表に対するモチベーションがさらに高まりました。

鶴見大学小児歯科学講座

大川 由加



発表ポスターの前で



現地の方に勧められたチヂミと韓牛鍋のお店

2度目のKAPD大会を経験して

大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座

奥田 真琴

発表内容の説明

今回、過剰歯と永久歯との癒合歯に対する治療について発表を行いました。本症例では、11歳3か月の男児のエックス線画像において、過剰歯と上顎右側第二小臼歯の癒合を認め、自然萌出を期待して観察を行ったところ、13歳3か月時点で癒合歯の萌出を認めました。14歳3か月時に癒合部に齲蝕を認めたため、エックス線画像診査を行ったところ、癒合部は歯冠部象牙質に局限し、歯根は分離していることが明らかとなりました。そこで、癒合部を切断して過剰歯のみを抜去し、上顎右側第二小臼歯に対してコンポジットレジン修復処置を行いました。その後の経過は良好です。



ポスター発表の様子

大会参加に関する感想

この度は国際学会発表奨励事業により、KAPD大会に参加する機会をいただきありがとうございました。自身にとって2度目のKAPD大会への参加であったため、前回よりも堂々と発表を行うことができました。また、同世代の先生方の発表からも数多くの新しい知見を得ることができました。懇親会では韓国の先生方に韓国流のお酒の飲み方やサムギョプサルの食べ方を教わることができ、韓国という国をより身近に感じることができました。今回の学会参加での経験を活かし、今後日々研鑽に努めていきたいです。



会場内のフォトブースでの1枚

第66回韓国小児歯科学に参加して

九州大学大学院歯学研究院口腔保健推進学講座・小児口腔医学分野

小峯 到

発表内容の説明

ダウン症候群における早老症様症状を交換期に脱落した乳歯歯髄幹細胞(SHED)を用いて遺伝的解析を行っています。

本研究ではダウン症候群に特徴的な退行様症状に着目し、幼年期から学童期のダウン症候群患児のSHEDを用いて若年の頃より細胞、遺伝子レベルで退行性変化が生じているのか解析を行うことで、早老症様症状の原因を解明しています。



ポスター発表

大会参加に関する感想

今回初めて国際学会に参加させていただきした。英語によるポスター発表と質疑応答では自分の語学力不足を痛感しました。一方、韓国や台湾の先生方との交流では日本との文化の違いや歯科治療における材料等の違いなど様々な発見があり、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、韓国の街並みや食文化にも触れることができ、非常に濃い経験となりました。

今後、今大会から得た経験を日々の臨床や研究に活かしていきたいと思います。この度は貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

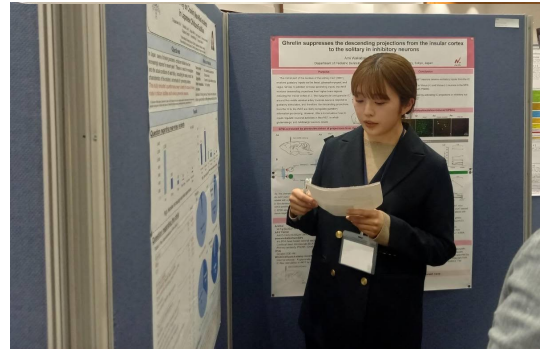


ベオゲ橋から見た川

発表内容の説明

近年、日本では保育施設における窒息事故が相次いで報告されており、提供される食事の内容や園児の年齢・発達状態、さらには事故を未然に防ぐための対応について、現場の実態を把握することが求められています。

そこで本研究では、保育施設における窒息リスクの原因を明らかにし、予防策を検討するため、アンケート調査を実施しました。



発表の様子

大会参加に関する感想

今回、初めて海外での学会発表を経験いたしました。発表前は不安もありましたが、会場の雰囲気はとても温かく、ポスター発表では研究内容について多くご質問やご意見をいただくことができ、大変貴重な経験となりました。また、自身の研究に対する反応を直接いただけたことで、今後の研究活動においても大きな自信につながりました。各国他大学の先生方の発表からは、日本とは異なる視点や新たなアプローチに触れることができ、大変刺激を受けました。



韓国料理のカンジャンケジャン

初めての韓国

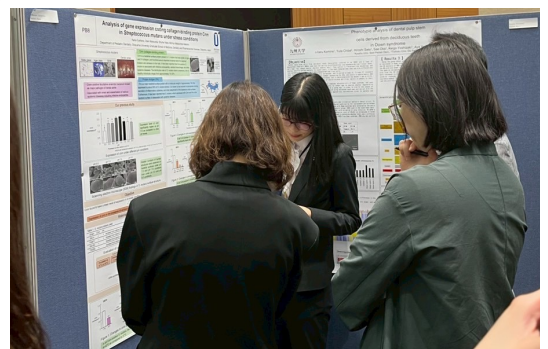
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児歯科学分野

末原 佳奈

発表内容の説明

Streptococcus mutans が持つ Cnm というタンパクは、体内への侵入や付着に重要な役割を持っており、様々な全身疾患に関与することが明らかになっています。本研究では、生体内で想定される熱や浸透圧といったストレス環境が *cnm* 遺伝子の発現に与える影響を調べました。その結果、*S. mutans* は通性嫌気性菌であるにも関わらず、酸素の多い環境で発現が増加することが明らかとなりました。

このことから、*S. mutans* は血液中のような酸素豊富な環境で Cnm を多く産生し、全身疾患の発症に関わっている可能性が示されました。



ポスター発表の様子

大会参加に関する感想

この度は、国際大会発表奨励事業により、KAPD に参加する機会をいただきありがとうございました。ポスターの前で英語での発表と質疑応答をするのは初めての経験だったのでとても緊張しました。質問で聞かれている英語を理解できても、上手く英語で回答できずに悔しかったです。

また、私は初めての渡韓でしたが、韓国は日本との時差もなく、日本から飛行機で約2時間で行くことができ、身近な国であることが分かったので、また気軽に訪れたいと思いました。



朝食のソルロンタン

KAPD 大会に参加して

大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座

高木 美里

発表内容の説明

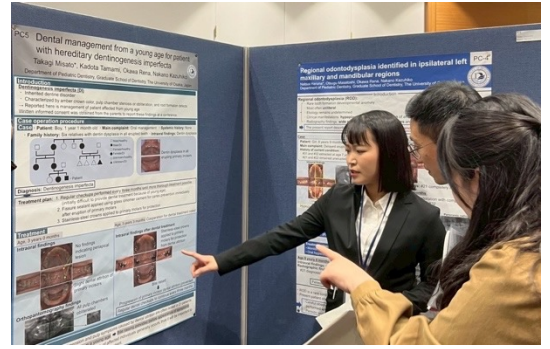
象牙質形成不全症は、遺伝性の象牙質形成異常の1つで、歯の特徴的な琥珀色や著しい咬耗を特徴とする疾患です。今回は、1歳頃に口腔内管理を希望して来院した、家族性に象牙質形成不全症に罹患している患児について発表を行いました。

本症例では、当科初診時に萌出していた全ての乳歯に象牙質形成不全を認めたものの、低年齢であるため歯科処置を行うことは困難でした。そのため、定期的に口腔内管理を行い、歯科処置に協力が得られた3歳頃、乳臼歯部に乳歯用既製金属冠の装着を行い、咬合高径の回復を行いました。

大会参加に関する感想

国際大会発表奨励事業により、第66回韓国小児歯科学会に参加する機会をいただきありがとうございました。今回参加させていただいた KAPD 大会は2回目ということもあり、前回よりも落ち着いてポスター発表を行うことができました。また、初めてタッカンマリを食べ、韓国の食の美味しさを改めて実感することができました。

異国の地で自分の意見を伝えることは難しいですが、国際学会でポスター発表を行うといった貴重な経験をさせて頂きありがとうございます。このような経験を、今後の臨床や研究に活かしていきたいと思います。



韓国の先生方でのポスター発表



医局の先生方とお食事会

韓国小児歯科学会大会を振り返って

大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座

夏江 華瑠奈

発表内容の説明

今回、左側上下顎の2ブロックに Regional odontodysplasia (ROD) を認める症例に対し、永久歯萌出の経過観察を行った症例について発表しました。

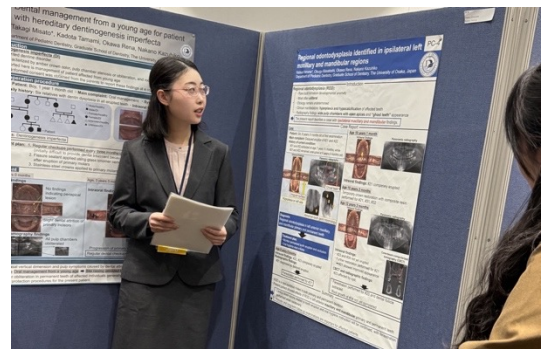
ROD は原因不明であり、多くの場合1ブロックのみに歯の石灰化不全や形成不全をきたし、エックス線写真より“ghost tooth”と呼ばれる広い歯髓腔と開いた根尖孔を認めることが特徴です。

本症例では、上顎左側中切歯および犬歯の萌出遅延に対し開窓を行い、萌出歯の形成不全に対しては暫時的な歯冠修復を行いました。今後も永久歯の萌出に対し、経過観察を行いながら保存する方針としました。

大会参加に関する感想

この度、国際大会発表奨励事業により第66回韓国小児歯科学会大会に参加する機会をいただき、ありがとうございました。会場では、さまざまな国の先生方が意見交換をされており、臨床および語学学習に対する意欲が高まりました。大会中 Walking Tour として案内していただいた奉恩寺は、色とりどりの提灯が吊るされており幻想的でした。個人的な旅行では足を延ばさなかったであろう寺院の見学ができ貴重な機会となりました。

今後、海外の先生方と積極的にディスカッションできるよう臨床・語学の勉強に精進したいと思います。



ポスター発表の様子



奉恩寺の境内

KAPD2025に参加しました

広島大学医系科学研究科小児歯科学

西村 卓

発表内容の説明

混合歯列期は小児歯科治療において、その後の発育に関与する極めて重要な時期です。この時期に過剰歯、先天性欠如歯および埋伏歯などの歯の異常を検出し、早期に治療計画を立てることが重要です。今回の発表では、人工知能に小児のパノラマエックス線画像の歯の種類を識別するアルゴリズムを構築し、違うモデルの性能の比較の研究について発表しました。今後も人工知能の性能改善をしていきたいです。



ポスター発表

大会参加に関する感想

今回韓国のソウルで開催されたKAPD2025は2回目の国際学会でした。様々な講演や英語でのポスターセッションを通じて多くの学びを得ることができました。今回のポスターセッションでの質疑応答を通じ、より見識を深める事ができました。

また本場でのカンジャンケジャンを食べました。味はもちろんですが、食文化の違いにも触れることができました。韓国ではショッピングモール内に水族館などもあり、日本との違いに驚きました。今後も海外発表ができるように研究に取り組んでいきたいです。



シーラカンスを見てきました

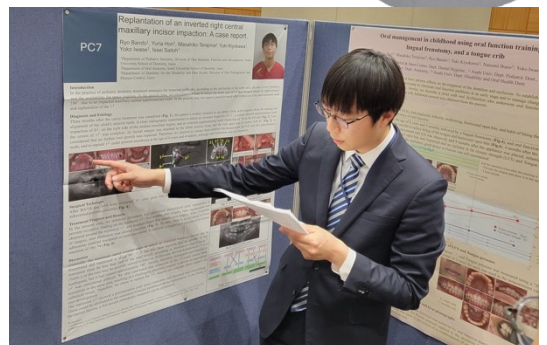
KAPD大会での学会発表を振り返って

朝日大学歯学部 口腔構造機能発育講座小児歯科学分野

坂東 亮

発表内容の説明

上顎右側中切歯が過剰歯によって、およそ180度唇側へ回転して埋伏していた症例において、全身麻酔下で過剰歯の抜去と上顎右側中切歯の歯軸傾斜を再植して改善を図った。再植時の上顎右側中切歯の状態は、歯根の形成度はmorreesの分類でRiであり、切縁と歯根形成部が皮質骨に接触して埋伏していたため歯根の成長が望めない状態であった。再植後は歯根に形態の異常が見られたが、骨性癒着や、歯髄失活などを起こさず萌出し、根尖の閉鎖を認め、良好な治療結果となった。



ポスター発表中

大会参加に関する感想

海外でのポスター発表は今回で二回目でした。一回目の時はたくさん質問をいただいたのですが、英語がとても苦手で、うまく答えることができないこともありました。しかし、今回は拙いながらもすべての質問に答えることができ、自分の中で成長を感じるとともに、今後も海外で発表できるよう研究、臨床と英語を頑張っていこうという意欲がわきました。もし今後も機会があれば、是非参加したいと思います。この度は海外で発表させていただくというとても貴重な機会をいただき、ありがとうございました。



DMZの博物館にて

第66回韓国小児歯科学会大会に参加して

朝日大学医科歯科医療センター歯科衛生部
福井 朝望

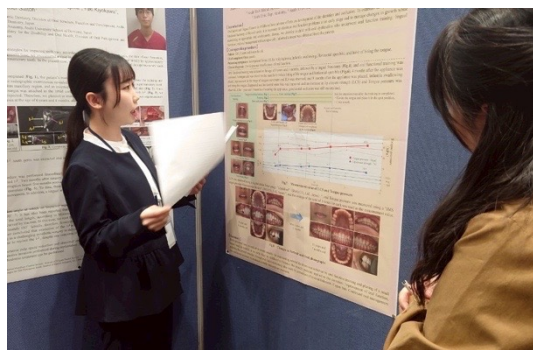
発表内容の説明

小児期の口腔習癖は噛み合わせや歯並びの発育に様々な悪影響を及ぼします。将来、口腔の良好な形態的・機能的な調和を確立するためには、早期に口腔機能の問題を取り除き、対応していく必要があります。本症例では、口腔機能発達不全症の小児に対し、口腔機能訓練と舌小帯切除を行い、タングクリブ（物理的に舌が前方に突出するのを防ぐ装置）を併用し、口腔管理を行うことで、歯並びの正常な形態を維持するのに適した口腔内環境を得ることができると示唆されました。

大会参加に関する感想

この度は国際大会発表奨励事業により、韓国小児歯科学会大会に参加する機会をいただき、誠にありがとうございました。慣れない言語での発表でとても緊張しましたが、たくさんの先生方に支えていただき、無事に終わることができました。

異文化に触れあいながら、このような貴重な経験ができたことを糧に、今後の臨床や研究により一層、励んで参りたいと思います。



ポスター発表の様子



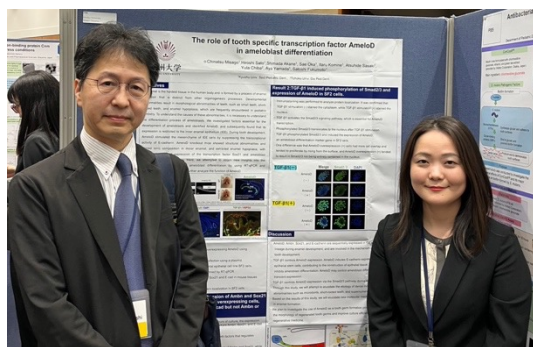
ロッテワールドタワーにて

KAPD2025に参加して

九州大学大学院歯学研究院口腔保健推進学講座小児口腔医学分野
三砂 千夏

発表内容の説明

エナメル質の発育異常は矮小歯・短根歯・過剰歯など、歯の形態異常を引き起こします。これらの異常の原因を解明するにはエナメル芽細胞の分化過程を理解する必要があります。AmeloD は内エナメル上皮細胞に特異的に発現しており、歯周上皮細胞の分化を促進する可能性があることから、RT-qPCRと免疫蛍光染色法を用いて AmeloD の機能をさらに分析し、AmeloD とエナメル芽細胞分化のメカニズムに関する新たな知見を得ようと試みました。



ポスター発表後、福本教授と

大会参加に関する感想

今回の学会が初めての国際学会参加であり、初めての渡韓でした。英語での発表や質疑応答は不慣れなものでしたが、とても有意義な経験となりました。懇親会にも参加させていただき、温かい先生方との交流で楽しい時間を過ごすことが出来ました。本当にありがとうございました。また、今回、韓国の観光も楽しむことが出来、グルメも美味しく、充実した国際学会となりました。今回の経験を今後の診療や研究に活かしていきたいです。



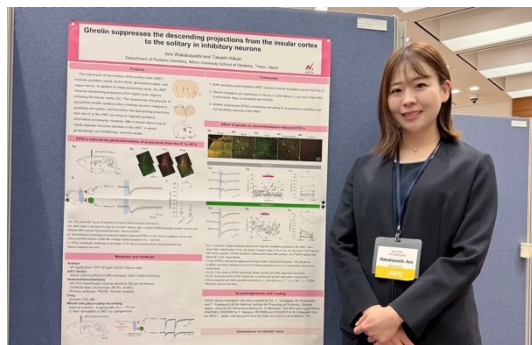
観光も楽しみました（景福宮）

韓国小児歯科学会大会に参加をして

日本大学歯学部小児歯科学講座
若林 杏美

発表内容の説明

グレリンとは胃から分泌される食欲増進ホルモンです。このホルモンは味覚の感度を高める報告があります。そこで私たちは、味覚を認知する大脳皮質から味覚情報を受け取る延髄孤束核に指令を送るニューロンが、グレリンによってどのように調節されているのかを電気生理学的に解析しました。食欲や味覚に関する脳の仕組みの解明は、小児期の味覚形成にも関与すると考えています。



ポスター発表

大会参加に関する感想

このたび、韓国小児歯科学会に参加し、発表の機会をいただいたことは大変光栄であり、貴重な経験となりました。学会を通じて多くの学びと気づきを得ることができました。発表後には温かいご意見をいただき、今後の課題が明確になりました。また、現地の先生方との交流を通じて、小児歯科に対する共通の思いや熱意を感じることができ、刺激を受けました。この経験を糧に、より一層努力をしていきたいと思えます。



韓国グルメ

